

山形県大石田町

「そばの里 大石田町の歴史と文化・未来に向かって」

プログラム概要	:	大石田町の歴史と文化を学ぶとともに、観光資源である「そば」について、そばの歴史・伝統を学び、そば打ち体験をする。
実習先	:	大石田町
実習先情報	:	山形県の中央にある町。かつては最上川舟運の拠点として栄えた町。
参加人数	:	7名（1班）
実習期間	:	令和7年8月18日～8月20日
本学担当教員	:	武田憲明

○はじめに

この成果報告では二泊三日の山形県大石田町での活動についてまとめる。

○実習内容

一日目

- ・地域町おこし協力隊の方による講義
- ・虹の町案内人による観光案内
- ・芋煮調理体験

二日目

- ・そば作り体験
- ・陶芸体験
- ・銀山温泉見学

三日目

- ・大石田町の歴史と文化についての講義
- ・最上川千本だんご



○経験したこと、学んだこと

一日目

地域町おこし協力隊の方の説明を聞き、関係人口についてなど今まであまり聞いたことない内容だったが自分も将来挑戦したいと思えた。大石田町だけでなく自分たちの祖父母の地域などでも挑戦することができると考えた。そして町めぐりや芋煮調理体験などを通して地域の方と関わり、地域の方の温かさをとても感じた。

二日目

そば作り体験ではグループで行う作業が多くメンバーとの関係値が上がったと感じた。みんなで頑張った作ったお蕎麦は今までとは一味違う美味しさがあり、改めてこのFSを選択してよかったと感じた。陶芸体験では細かい作業が多く、みんな集中して自分の作品に取り掛かっていた。どちらの活動でも一日目と同様地域の方の温かさをとても感じる機会となった。銀山温泉では普段あまり行かない温泉街という場所で足湯に使ったり、写真を撮ったりなど二泊三日の中で特に大切な思い出となった。

三日目

地域の方から大石田町の歴史と文化について聞き、最上川とのつながりなど、二泊三日過ごしてきた地域にとっても深い歴史があったことを実感した。また大石田町の歴史と現状について聞き、廃校舎をどうするかや、大雪への対策なども聞き、課題を見つけることができた。

○提案したこと、発信したこと
地域町おこし協力隊の方の説明を聞き、
①関係人口を増やす②廃校舎の活用法
が課題だと知った。

そこで私たちが提案するのは、使わなくなった小学校を宿泊施設に改装するという
ことだ。最上川花火大会やブリッジ次年子窯は県外から多くの観光客が来るが、宿泊施
設不足で観光客が滞在できないという。だから、大石田町へ観光に来る人を含めた関
係人口を増やすためにも廃校舎を活用していくことを提案する。

屋上にベンチを置くことで花火の鑑賞にも使える他、普段は星の鑑賞や落ち着くこ
とができる場所にもなる。

○今後の展開、今後の学び

二泊三日のFSを通して初めて体験することや学ぶことが多く、特に町おこし協力隊
の方の話聞き、今後、就職していく中で視野に入れたいと考えた。まず身近な人に
私たちが大石田町について話し、聞いた人がまた他の人に話すなど、大石田町の良さ
が人づてに伝わっていきやすいようにしたいと考えた。

○まとめ

FSでは地元に行きにくい体験ができ、貴重な時間となった。そしてプログラム
を通して大石田町の方々の暖かさを感じることもできた。

蕎麦作りや陶芸体験では師匠の力なしでは行うことができないものであって、とて
も親切に教えてくださった。普段めったにやることではないからこそ、とても貴重な
時間を与えてもらっているのだと実感することができたしその難しさにも気づくこ
とができた。どちらも繊細な技術かつスピーディーにこなすことが必要とされているか
ら、師匠みたいな出来にするのはなかなかできないものだった。

大石田の自然にとっても癒され、東京では見ることのできない美しさを目にすること
ができた。ここでしか感じることのできない良さをたくさんの観光客にも味わって
もらいたいと思い、人を呼び込むための工夫を更に考えていく必要があるのだろうと感
じた。

改めてこの二泊三日の体験は、私たちに新しい価値観を与えてくれたと思う。大石
田町の方々の地元愛を目にして、私たちも大石田町のことをこれからもっと好きにな
っていくだろう。

山形県大石田町 「そばの里 大石田町の歴史と文化・未来に向かって」

プログラム概要 : 大石田町の歴史と文化を学ぶとともに、観光資源である「そば」について、そばの歴史・伝統を学び、そば打ちを体験する。また地元の窯元(次年子窯)での陶芸体験や虹の町案内人による町歩き、地域おこし協力隊の方による講義を受講。

実習先 : 山形県大石田町
参加人数 : 8名 (2班)
実習期間 : 令和7年8月20日～8月22日
本学担当教員 : 武田憲明

○はじめに

大石田町で2泊3日のFSプログラムに参加。地域の方々との関わりの中で、伝統や文化を学ぶことができた。

○実習内容

1日目

大石田町の歴史と文化についての講義
 虹の町案内人の方による町めぐり
 芋煮体験

2日目

そば打ち体験
 次年子窯の陶芸体験
 银山温泉見学

3日目

地域おこし協力隊の方による講義



○経験したこと、学んだこと

1日目

大石田町の歴史や文化を学ぶことができた。また、現状や課題について地元の方々の意見を聞きながら、深く学ぶことができた。

町めぐりでは、最上川をはじめとする、多くの文化人が訪れた場所に実際に足を運ぶことができ、大石田町の魅力を感じた。

2日目

そば打ち体験では、大石田町固有の「来迎寺在来」についての説明を聞くことができ、そば処としての大石田町を感じた。そば打ちは難しかったが、自分たちで打ったそばをみんなで食べることができて楽しかった。

陶芸体験では、先生の手を借りながら、理想の形に近づくことができ、完成が楽しみになった。

银山温泉は違った雰囲気、美しい風景と足湯を満喫した。観光客も多くにぎやかだった。

3日目

アートと地域おこしを融合させるという考えが新しく、すごいなと思った。アートは多くの人に参加できるものだから、人と人の関わりが増えていくことにつながると考えられる。「大石田AIR」興味深く調べていきたい。

○提案したこと、発信したこと

大石田町の役場の方々の講義の中で、課題として挙げられていた、

- ・ 関係人口が少ない
- ・ 廃校になる小学校がある

という点について考えた。

現在は、インターネットの普及により、観光の際にInstagramやTikTokで調べることも多い。だから名度を上げることが重要だと考えた。

大石田町である意味や何度も訪れてほしいということも考えて、私たちは撮影地としての提供を提案する。それにより、撮影地として多くの人に知ってもらうことができ、聖地巡礼として何度も足を運ぶ人が増えることが期待できる。

また、都会と比較して子育て支援が充実していると感じた。日本は少子化と言われているが、生活に余裕があれば子供を産み育てたいと考えている人は少なくないと考えられる。そこで、そう考えている夫婦や家族にアピールすることで若い世代の人口増加につながると考えた。

○今後の展開、今後の学び

大石田町について、このFSに参加して、実際に足を運んでわかったことがたくさんある。また、SNSを普段から使用している私たちだからできることがあると思う。調べただけではわからないことを、伝える役割を担っていけたらいいと考える。

○まとめ

3日間のFSでは、大石田町でたくさんの経験をさせていただいた。多くの文化人が訪れた場所に訪れることができ、歌や風景のことをより深く学ぶことができた。そば打ち体験ではそば種や打ち方などの伝統を体験することができた。長く引き継ぐことの重みを感じた。また、人口や観光客が多いとは言えないかもしれないけれど、地域の人々の距離が近くとてもあたたかい町だと思った。

地域の方々のお話を聞いている中で、大石田町の良いところと課題を見つめて考えられていて、大石田町のことをどれだけ考えられているかが伝わった。また、私たちがお話を聞いた「大石田AIR」の、中学生にダンスを教える中で、礼儀などの教育もしていくというお話が印象的だった。町おこしを通して地域の人々のつながりを大切にしている。それによって、子供たちが大人になったときにもつながりが続き、地元を長く大切にしていけると感じた。

私自身も地元の小学校のクラスが減ったり、地域のお祭りがなくなってしまうたりと変化を思わずにはいられない状況にある。しかし、何もできないまま過ごすのではなく、大石田町の方々のように地元のために何ができるのか考えてみたいと感じた。大石田町の今と未来を考えたことをきっかけに、自分の地元も大切にしたいと思えた。

山形県大石田町

「そばの里 大石田町の歴史と文化・未来に向かって」

プログラム概要	:	大石田町の魅力を知り、それを活用した町づくり案を提案する。
実習先	:	大石田町（山形県）
実習先情報	:	かつて最上川最大の船着場として栄えた町
参加人数	:	7名（3班）
実習期間	:	令和7年8月25日～8月27日
本学担当教員	:	武田憲明

○はじめに

私たちは、山形県大石田町でそば打ち体験や陶芸体験を通して大石田町の文化や歴史を学び、現在の大石田町が抱えている問題から、その解決と発展のために何ができるのかを考えました。

○実習内容

< 1日目 >

役場での講義（大石田の文化や歴史について）
虹の町案内人による町内巡り
芋煮体験

< 2日目 >

そば道楽の会の方々から教わるそば打ち体験
次年子窯の陶芸体験
銀山温泉観光

< 3日目 >

町おこし協力隊による講義・意見交流



○経験したこと、学んだこと

< 1日目 >

大石田町役場での概要説明、虹の町案内人による町歩き、地元の早坂さんに教わりながら芋煮を作った。

< 2日目 >

そば打ち、陶芸の体験を行い、喫茶トトロで夕飯を食べた。その後、銀山温泉に行き、景色を堪能した。

< 3日目 >

地域町おこし協力隊の方と大石田町についてディスカッションをした。

○提案したこと、発信したこと

・大石田町が抱えている課題

- ① 少子高齢化
- ② 宿泊施設がない
- ③ 小学校の廃校
- ④ 観光地が少ない
- ⑤ 観光客が少ない



・提案内容

【廃校を拠点に大石田町を楽しめるプログラム】

- ① 宿泊施設
- ② 道の駅
- ③ ドッグラン

○提案したこと、発信したこと

- ・ 廃校を宿泊施設にリノベーション
→ 図書館を屋内キャンプ、プールをサウナに活用！
校庭でキャンプファイヤーなどイベントを開催
- ・ 「学校の道の駅」
→ 校舎棟を物販、飲食施設に
体育館を直売所にして、特産物をアピール
- ・ ドッグラン
→ 次年子窯体験で出会った玄米（犬）から連想
校庭を使ったドッグラン施設を開設
犬好きはドッグランのために地方に旅行することもある
- ・ 駅からの移動手段
→ 地域まちおこし協力隊の木村さんの意見を取り入れて、シェアサイクル、
トゥクトゥク、レンタカーなどを配備



○今後の展開、今後の学び

学部を越えた班のみんなとの共同作業や協力を通して、一つの目標に向かって一丸となる楽しさと大変さを知った。共同作業をするうえで、お互いを尊重することの大切さや、地域を思いやる心を、今後の大学生活に活かしていきたい。

○まとめ

今回のフィールド・スタディーズを通して、山形県大石田町に出向いたからこそ体験できることや地元の人だからこそ知っている大石田町の魅力について知ることができた。そば打ち体験では、品種や作り方が伝承されているからこそ、今もなお人気を集めているのだと実感することができた。また、陶芸体験で訪れた場所は、実際に廃校を活用した例として、最終的な提案の参考になった。まちの方々との交流を深める中で、大石田町を大切に思う気持ちを感じられ、大石田町の発展のために何ができるか真剣に考えたいと思った。事前活動では知識の浅かったことも、実際の活動を通して詳しく学ぶことができ、大石田町のために多くの人がかかわり、支えあっていることも知ることができた。

山形県大石田町

「そばの里 大石田町の歴史と文化・未来に向かって」

プログラム概要	： 「そばの里 大石田町の歴史と文化・未来に向かって」
実習先	： 山形県大石田町
実習先情報	： 山形県の北東部に位置し、最上川が南北に流れていて、そばが有名。
参加人数	： 8名（4班）
実習期間	： 令和7年8月27日～8月29日
本学担当教員	： 武田 憲明

○はじめに

私たちは大石田町で3日間で地域の文化や伝統を体験し、町の魅力を深く理解する。

○実習内容

1日目

講義（大石田町の歴史と文化の紹介）
虹の町案内人ボランティアによる町内案内
芋煮作り

2日目

そば打ち体験
次子窯の陶芸体験
喫茶トトロで夕食
银山温泉見学

3日目

地域おこし協力隊による講義、質疑応答
千本だんごを食べる



○提案したこと、発信したこと、など

○コンビニの数を増やし車で移動しないとイケない現状を変える

○冬のアクティビティやそばづくり以外の魅力を増やす

○経験したこと、学んだこと、など

1日目は、大石田の役場の人から大石田町の概要、苦悩や歴史やかかわりが深い有名人のことについて聞いた。芋煮作りを通じてボランティアの人から大石田町の人々の習慣などを聞いた。

2日目は、そば打ち体験でそばの繊細さとそば作りの難しさについて学んだ。その後、次子窯で陶芸体験をして陶芸の難しさと奥深さが少しわかった。そのあと、喫茶トトロで夕食を食べた後银山温泉に見学に行った。

3日目は、地域おこし協力隊の人の話を聞いて、大石田町の問題を解決できる解決策を班のみんなとアイデアを出し合って大石田について考えた

○今後の展開、今後の学び、など

地域課題を解決するためには主体性や柔軟な発想が大切だと感じた。地域おこし協力隊のように、新しい環境に飛び込み、何かに挑戦する姿勢を見習い、今後は様々なことを主体的に挑戦していきたい。

○まとめ

大石田町での3日間の学外学修では、町の歴史や文化、人々の暮らしを体験的に学ぶことができた。初日は役場職員から町の成り立ちや著名人に関する講義を受け、芋煮作りを通して地元ボランティアから食文化や日常の習慣を知った。二日目はそば打ち体験で職人技の繊細さと難しさを体感し、次年子窯での陶芸では土と向き合い作品を形にする奥深さを学んだ。夕食後には银山温泉を見学し、歴史的景観と観光資源の豊かさを実感した。3日目は、地域おこし協力隊の人の話を聞いて、「大石田エーア」の活動について話を伺った。私たちは地域活性化策として、コンビニの不足や冬季のアクティビティ拡充などを提案し、町の魅力を高めるアイデアを共有した。全体を通じ、地域課題の解決には主体性と柔軟な発想が欠かせないと理解した。この経験を踏まえ、今後は新しい環境にも積極的に飛び込み、自ら学び挑戦する姿勢を大切にしていきたい。

